

# 令和元年度 建設文教委員会 行政視察報告書

令和元年10月8日(火) 大阪市 福島区  
「小学校3・4年生補習学習会について」

令和元年10月9日(水) 大阪府 和泉市  
「観光振興施策について」

上記の視察項目について全委員の報告書を添付し報告とします。

建設文教委員	委員長	清水 義昭
	副委員長	近藤 千鶴
	委員	いとう ひろし
		林 ゆきひろ
		近藤 ひろひで
		宮本 英彦
		近藤 郁子

# 令和元年度 建設文教委員会行政視察報告

令和元年11月1日

清水 義昭

日付：令和元年10月8日（火）  
場所：大阪市福島区（鷺洲小学校）  
項目：小学校3・4年生補習学習会について

## ○主な視察内容

- ・学力自体、全国平均以上ではあるが、分析してみると、できる子とできない子との2極化が進んでいた。
- ・家庭での学習習慣が全くない児童の割合が、7.2%と、大阪府の平均値よりも高くなっていた。
- ・小学校3・4年生は、算数では掛け算、国語では抽象表現などにより、つまずきやすい時期である。

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

- ・3年生：火曜日、15:00～16:00、定員15名
- ・4年生：木曜日、16:00～17:00、定員15名
- ・対象教科：算数・国語
- ・場所：大阪市立鷺洲小学校普通教室

である。主な特徴は、

- ・教材費・授業料は不要。
- ・講師1人に対して児童5人以下と少人数制を実現。
- ・学校の授業の復習を行う。
- ・実施は委託。プロポーザルにて毎年選定。  
初年度は3社、2年目となる今年度は1社が応募。
- ・事業予算は1校約200万円。貧困対策として降りてきた予算を充てている。
- ・学校は教室を貸しているだけ。

である。本事業により得られた成果は、

- ・家庭での学習習慣が身に付き、その割合は約64%となった。
- ・成績での評価は難しいため行っていない。

である。

## ○所感

前年度は10人の児童に対し講師1人だったため、落ち着きのなさが目立ったことを理由に、本年度は5人の児童に対し講師1人としたため、落ち着いて学習できるようになったなど、改善された点が多い。

保護者からの評価は上々とのことであったが、実際の学習会はアットホームな雰囲気で行われており、参加児童も集中できていた。

様々な努力により事業効果を向上させていると感じたが、本市においても学力の2極化は進んでいると思われるため、家庭での学習習慣定着だけでなく、その先の学力向上をも目標とした上で検討を進めていく必要がある、と考える。

日付：令和元年10月9日（水）

場所：大阪府和泉市

項目：観光振興施策について

## ○主な視察内容

- ・大阪府には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンや道頓堀、古墳、さらには「だんじり」で有名な岸和田市などがあり観光客が増加しているが、和泉市への観光客数は伸び悩み、恩恵が薄い。
- ・人口が横ばいで推移しており、今後の少子高齢化等による人口減に危機感を感じている。

上記の理由から、本事業を行うこととした。概要は、

- ・観光振興戦略プランの策定およびプランを実行し、観光客数増加および定住促進を図る。

である。主な特徴は、

- ・駅前観光おもてなし処の設置
- ・クーポン付き観光マップの作成
- ・観光看板、トイレ洋式化等観光地の整備
- ・観光ウェブサイト構築
- ・土産物開発
- ・パブリックアートの制作
- ・シェアサイクル導入
- ・担い手育成

である。本事業により得られた成果は、

- ・観光客数は目標の150万人に届かなかったものの、プラン策定前の平成27年度と比較し1割以上増加した。
- ・定住促進については分析が難しいため効果は不明。
- ・事業の一部を旅行会社等に委託したことにより、SNSでの発信やPRグッズなど事業の幅を広げることができた。

である。

## ○所感

本市同様、ベッドタウンであるが故、観光施策への予算配分がなされにくい自治体であるが、戦略プランを策定する過程で、観光振興に対する様々な事業の棚卸を行い、補助金、交付金などの獲得に可能な限りの働きかけを行ったことについて、かなり参考となった。

目標の観光客数には残念ながら届かなかったものの、その効果は時を経て徐々に現れると思われる。

効果の薄い観光協会をずいぶん昔に廃止していたことにより、おもてなし処と名付けた観光案内所兼土産物販売所を委託業者に行ってもらうことができ、施設の一部を証明書等発行業務に使うなど有益に使われており、本市においても現在の観光協会の効果を検証する必要性を感じた。

本市においては、歴史資産「桶狭間の合戦」を有しており、その潜在力は高いと思われる。現在の施策を点検、評価するとともに、順次提案していきたい。

10月8日(火)

【大阪市福島区】鷺洲小学校「小学校4年生補習学習会」について

○福島区主催補習学習会の経緯

- ・福島区の小・中学校の学力は全国平均以上だが、個別にみると2極化している現状があり教育会議にてH29年調査し、全く自宅で勉強していない子福島区7.2%（大阪府6.8%）その結果を課題と捉えて学習支援をはじめることにした。

○対象学年

- ・各小・中学校の判断にまかせて決定した。

○事業者選定

- ・公募型プロポーザル（H30年-3社 H31年-1社）

○効果

- ・出席率79%（H30年-79%）アンケートにより勉強が習慣ついた子は64%になった。

○「鷺洲小学校補習学習会」3、4年生

- ・算数・国語の2科目が学べる！
- ・基礎学力向上と学習習慣の形成をめざしたい
- ・もう一度苦手単元を克服したい
- ・1人の講師に対して児童5人以下の少人数制
- ・中学校受験・先取り教育には対応しておりません
- ・教材・授業料は必要ありません

感想

- ・福島区内には、小学校9校のうち5校が補習学習会を実施しているそうです。区としては全校での実施を考えているそうですが各学校の状況や学校の理解が得られず全校では実施できてないが、今後も全校実施に向け検討していくそうです。
- ・鷺洲小学校は3、4年生対象にしたのは、この学年で授業内容を理解できるようにしたいと考えての事だそうです。
- ・昨年度は1人の講師に対して児童10人以下としてはじめてたそうですがトライと区が検討し、学習が手厚くできるようにと本年度は児童5人以下に変更したそうです。その結果として本年は児童が勉強する気で集まり、落ち着いて学習できる子が増えたそうです。
- ・学習会の申し込み数が本年度は定員数の2倍の申し込みがあったそうで、事業も2年目に入り保護者・児童に理解が得られたようです。担当課は市からの予算がつくまで継続していきたいと言われていました。
- ・本市においては現在、中学生対象に学習支援を行っていますが、小学生対象については様々な観点から検討が必要と考えます。

10月9日(水)

## 【和泉市】観光振興施策について

○和泉市観光振興戦略プラン策定 H28年2月

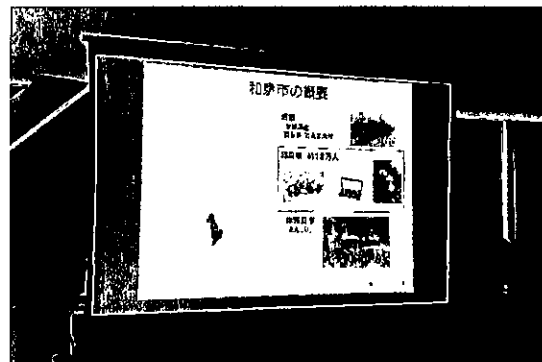
- ①現状の和泉市を認識
- ②モニターツアーの実施
- ③課題やニーズ把握
- ④解決に向けた戦略

○特徴

- ・数値目標を定めて計画的に施策を進めるー3年後に観光客150万人に
- ・エリアごとに施策を展開ー北部・中部・南部地域に区分け

○主な事業

- ・クーポン付マップ作成
- ・エリアマガジン作成
- ・イベント実施
- ・観光看板の整備
- ・サイクリングツアーの実施
- ・観光ボランティアガイド養成
- ・パブリックアート制作



○今後の予定

- ・2020年東京オリンピック、パラリンピック
- ・2024年IR(計画進行中)
- ・2025年大阪国際博覧会

観光客のさらなる増加

取り組みの継続が必要 → 和泉市観光アクションプラン(今年度中に作成)

○観光振興施策を支える担い手育成

- ①全職員がシティープロモーター
- ②全市民がシティープロモーター
- ③観光ボランティア等の人材育成
- ④旅行会社等への事業委託 → いずみの国観光おもてなし処(おもてなしマイスター)

感想

- ・戦略プラン3年間で目標の観光客数は達成しなかったが、今後大阪府には観光客のさらなる増加が見込まれるため、取り組みの継続実施できるよう今年度中にアクションプランを作成することと、和泉市の観光促進への真剣さが感じられました。
- ・観光促進施策を旅行会社等へ事業委託したことにより、イベント開催やPR活動、SNS等の発信  
また、観光おもてなしマイスターを配置したことにより、さらに大きく広がったと感じました。
- ・本市の観光促進のために学ばせて頂ければと和泉市を視察させていただきました。  
市を取り巻く環境や観光資源など違いがありますが、どうしたら多くの方に本市を知ってもらい、来てもらい、定住へと結びつけたいとの思いは同じではないかと感じました。  
和泉市取り組みの中で本市に取り入れると有効なもの何かを検討したいと思いました。

# 建設文教委員会行政視察報告書

提出者 いたうひろし

視察期間：令和元年 10 月 8 日（火）15 時から 17 時

視察場所：大阪市鷺洲小学校

内容：放課後補習学習会による学力向上の取り組みについて

## 1 日目

鷺洲小学校は大阪駅の 1 区画先の福島駅下車徒歩 10 分くらいに位置しており、創設 120 年の小学校で都会のほぼ真ん中にあり、児童数は 614 名で、年々児童数も増加しており、校舎の増設を予定している。

古くからの地域で比較的裕福なご家庭が多いが、最近では市外・県外からマンション等に引っ越してくる方が多く、文化や習慣の違いでやや問題が出ている。

★福島区では 9 校の小学校のうち 5 校が放課後補習学習を実施しており、他の 4 校も検討しているとの事です。

鷺洲小学校では基礎学力と勉強習慣が身につくやすい 3・4 年生に対して放課後に抽選で選ばれた 1 クラス 15 名程度の児童に対して民間事業者の「家庭教師のトライ」に委託し、3 名の講師と 1 人の管理者にて週に 1 時間をそれぞれの学年にて「算数」「国語」の授業を 30 分ずつ教えています。

目的としては、学業の基礎力アップと勉強習慣、それと貧困対策です。

民間事業者の選定は今回の公募は 1 社でプロポーザルでした。提案内容を精査し結果により、学校とのスケジュールに合わせた「家庭教師のトライ」に決まりました。

児童の申し込みも定員数の倍位の申し込みがあり、能力の低い子を優先している。6月から来年3月までの32日間を委託している。費用は5校で約1000万円位との事でした。授業風景も見学して参りましたが、どの児童も熱心に取り組んでいたのが印象的でした。

鷺洲小学校は3・4年生でしたが、他の学校では5・6年生を対象に行っている学校もあるそうです。豊明の地域で言う放課後子ども教室の民間による学習場のイメージに近いと思いました。驚いたことは、豊明市内の小学校では先ず見られなくなった、小鳥の飼育檻が庭にあり、懐かしくも大事な勉強の場がここにもあったと、思いました。なぜ、豊明にはなくなってしまったのか？考えさせられました。また、児童はみな同じ制服を着用していました。ここにも懐かしさを感じました。



## 2日目 観光振興施策について

提出者 いとうひろし

視察日時：令和元年10月9日（水）10時から12時

視察場所：大阪府和泉市役所 会議室

内容：観光振興施策について

和泉シティアピール課の中野さん・佐野さん・森さんら3人のとても若い方々から情熱を一杯感じられる説明で、スライドを交えながらお聞きして参りました。

和泉市の人口は約18万人で観光状況は、北約16Kmにユニバーサル・スタジオ・ジャパンがあり、南は岸和田市に挟まれ観光客急増の大阪府の恩恵をほとんど受けておらず、観光の通り道となっており、何とか和泉市で足を止めてもらおうと色々な施設・遺跡・公園・神社とそれぞれ観光ガイドを作り、数値目標を定めて計画的に施策を進め現在120万人の観光客を3年後には150万人になるよう北部・中部・南部地域の3つのエリアごとに施策を進め、地域に合ったビジネス促進（テクノゾーン中部地区）も面白い。観光促進から定住促進へと目標をきめており、国外にも観光案内をアナウンスしており、外国籍の方にも定住を促していきたい。

また、観光ボランティアの育成を旅行会社等への業務委託をしており、市内の2駅前に「いずみの国観光おもてなし処」を開業して街のイベントやPR、さらには特産品の販売にも力を入れている。特に最近ではSNSでの情報発信や観光マイスターの配置により行政では取り組みにくい民間との協働にも積極的に取り組んで付近を通

過する人を巻き込む様になっている。とにかく観光に力を入れている街でした。

私たちも行政で取り組みにくい所は民間との協働で推し進めたいと感じました。

# 建設文教委員会 視察報告書

林 ゆきひろ

大阪府大阪市福島区 (R1.10.08 視察)

## 「小学校3・4年生補習学習会」について

### 1. 事業内容

事業目的： 小学生の基礎学力向上と学習習慣の形成  
実施主体： 福島区役所企画総務課  
委託事業者： 家庭教師のトライ  
実施場所： 大阪市立鷺洲小学校 (大阪市福島区鷺洲5-6-8)  
学校児童数： 614名  
対象・実施時間： 3年生火曜日15時～16時、4年生木曜日16時～17時  
実施科目： 算数・国語  
定員： 3年生15名、4年生15名  
※申込が定員を超えた場合は事業者と学校が協議し決定

### 2. 視察の所感

今回視察した「補習学習会」が行われている鷺洲小学校は、比較的裕福な家庭も多い地域であり、学力も大阪市内では高い方との説明があった。実際に「補習学習会」を見学したところ、参加している子どもたちは集中して学習に取り組んでいる様子が見られ、落ち着いた子が多い印象であった。

福島区の他の小学校でもこの「補習学習会」を実施している学校はあるが、学校によって、3・4年生が対象であったり、5・6年生が対象であったりしている。小学校の学習内容として、3・4年生の算数で掛け算、割り算、分数、小数がはじまり、国語も抽象的な文章の読解問題も増え、学習に躓く子も多いと一般的に言われている。今回の補習学習会では、基礎学力向上と学習習慣の形成を目的としており、3・4年生での学習の躓きを早い段階から克服していくことを狙いとし、学校と相談して対象を3・4年生に決めたとの話であった。成果としては、成績の向上や家庭学習の増加などは、はっきりとは出てないようであったが、申し込みが非常に多く、保護者からの要望は高いようであった。

本市で実施している「どよう塾」に近い主旨であると感じたが、この「補習学習会」は学校内で実施しており、小学生の3・4年生という比較的早い時期に、講師1人に対して5人の子どもの学習指導という非常に手厚い対応をしていることが、保護者からの大きな期待に繋がっていると感じた。

# 大阪府和泉市 (R1. 10. 09 視察)

## 観光振興施策について

### 1. 和泉市の概要

和泉市は大阪府の南部に位置し、人口 186,156 人、面積 84.98 km<sup>2</sup>、年間歳出決算総額は約 640 億円（豊明市は人口 68,773 人、面積 23.22 km<sup>2</sup>、年間歳出決算総額は約 204 億円）のまちである。

これまで大阪都市圏のベッドタウンとして発展し、近年でもららぼ一と、コストコなどの大規模な商業施設を立地し、さらなる進展を遂げている。

### 2. 観光振興戦略プランについて

和泉市の人口は現状では概ね横ばいを推移しているが、今後、本格的な少子高齢化・人口減少社会の到来を考えると、人口減少は免れない。和泉市は、その対策として、「定住志向の向上」と「交流人口の拡大」を『まちづくり基本方針』に掲げているが、そのために「来訪促進」を行い、「ビジネス促進」「定住促進」を進め、そのツールとして観光振興は必須であると考えた。

観光客の市内主要観光施設利用者数 150 万人を目標に掲げ、そこから「和泉市を知ってもらう」「来てもらう」「住んでもらう」に繋げるようにターゲットを意識した誘客策を実践し、『観光振興戦略プラン』を策定した。

『観光振興戦略プラン』に基づき、「クーポン付き観光マップの作成」「多言語の観光マップ作成」「看板・トイレ洋式化等の観光地整備」「お土産品開発」「駅前の観光おもてなし処の設置」「観光ボランティアガイドの養成」「パブリックアート事業」等、様々な事業投資を行ってきている。

平成 30 年度末時点では、観光客は 150 万人には届いていないが、130 万人は超え、『観光振興戦略プラン』の開始当初と比較すると約 20% 増加している。

### 3. 視察の所感

本市でも人口増を考えた時に、「知ってもらう」「来てもらう」「住んでもらう」と繋げられるよう観光資源の活用は、1つの方法として検討する必要がある。

実際に、和泉市の「観光おもてなし処」や市内主要観光施設の 1つ「池上曾根史跡公園」も見学したが、「定住促進」に繋げていくことを考えると、若い世代や子育て世代が集まりやすく、気軽に遊べる場があると、より活性化するのではないかと思った。本市でも和泉市の観光に対する考え方は参考になると感じた。



# 大阪市福島区 (視察日 令和元年10月8日)

視察事項 福島区主催にて実施されている「家庭教師のトライ」による「小学校4年生補習学習会」について

## 福島区の概要

人口：73,162人 / 面積：4,67km<sup>2</sup>  
豊明市比較（人口：1.06倍 / 面積：0.20倍）

## 視察内容

- 補習学習を始める経緯及び理由は。  
学習習慣を身につけるため。（教材費・授業料は必要なし）
- 対象学年を限定した理由は。  
区内の各校で対象学年（3～6年）が違うが、高学年になる前の効果を期待したい。（講師1名に対して児童5人以下の少人数制）
- 事業者選定の基準は。  
毎年公募（プロポーザル）にて選定。（株）トライ大阪本社に委託
- 成果指標及び効果は。  
希望者は多いが毎年連続しないように配慮している。79%の出席率。

## 所感

視察した鷺洲小学校では、3・4年生の補習学習会が開講されました。教室を視察見学したところ、講師4人に対して10数名の児童が学習していました。講師は児童の自主性を大切にしているようで、回答が間違っている場合でも自己採点の後に教えていました。

落着きのない児童や、早とちりする児童も見かけられましたが、強制的な学習が行われていない講習内容には、共感が持てました。

## 和泉市 （視察日 令和元年10月9日）

### 視察項目 観光振興施策について

#### 和泉市の概要

人口：186,156人 / 面積：84.98km<sup>2</sup>  
豊明市比較（人口：2.70倍 / 面積：3.66倍）

#### 視察内容

- 観光振興の取組みを強化される目的は。  
大阪府への観光客は急増しているが、和泉市には恩恵が少ない。
- 観光振興戦略プランについて。  
観光ウェブサイトの構築（市の情報を毎日発信）  
観光カップリングツアー（年1～2回開催）  
和泉市いずみの国観光大使（ボクシング・野球選手）
- いずみの国おもてなし処について。  
市内の駅前に2ヶ所設置され、観光案内や名産品の販売も行われている。住民票の発行など市役所の分室機能も備える。  
運営は、(株)近畿日本ツーリスト関西（プロポーザル）が担う。
- 観光振興施策を支える担い手の育成方法は。  
「観光おもてなしマイスター」を置き、観光推進の企画・立案・実施に関すること等を担当する。専門的なノウハウが必須で、行政職員では難しいとのこと。

#### 所 感

大阪市の近隣に立地していて、周辺には、USJ・古墳・関西空港など数々の観光地があるので、付近を通過する人を巻き込む施策のようだ。また、都心までのアクセスも良好であり、観光促進から定住促進・ビジネス促進への狙いも感じ取られる。

一朝一夕に成し得ることではないと思うが、戦力的なプランに基づいて進められている。

観光発信についても、プロポーザル方式で専門性を有する事業者に委託されていることも、その効果を注視していきたい。

## 令和元年 建設文教委員会行政視察報告書

宮本 英彦

### ●視 察 先 大阪市福島区市立鷺洲小学校

① 日 時 令和元年10月8日(火) 15時00分～17時00分

② 視察テーマ 「小学校4年生の補習学習会」について

### ③ 視察内容

- ・ 福島区の人口は増加しており、子どもの数も増加している。大きなマンションが次々と建っている。小学校は9校、中学は3校。
- ・ 福島区の学力は市内の平均値以上で問題はなかったが、各学校内で見た場合、できる子と、できない子の2極化が進んでいた。全く勉強しない子の割合が7.2%と大阪市内の平均値より高い。できない子の底上げすることを課題と認識し、学習支援制度の補習授業を始めた。補習授業は9校中5校が実施している。これは空き教室があるかどうかとか、校長の考えにもよる。
- ・ 対象学年は3年生・4年生が多いが、各学校が選択している。6年生を対象にしている学校もある。
- ・ 鷺洲小学校は120周年を迎えた。学力も体力も大阪市内小学校では平均以上あるが、基礎学力の向上と学習習慣を付けさせるため、又、2極化が進んでいることもあり、このままではマズイとの認識に立ち始めた。
- ・ 業者は、プロポーザルで公募。外部の審査員で評価した。
- ・ 初年度は3社から応募があったが、今年はトライだけであった。
- ・ 授業は放課後1回あたり1時間、子ども5人以下に対し先生1人を付けている。
- ・ 学校側とは出席状況を連携している。
- ・ いきいき事業(児童クラブ又は放課後こども教室)の対象者も参加しており、特に問題はない。
- ・ 学校は教室を貸しているだけで、学級担任とか学校側とは別もの。先生からも保護者の概ね評価されている。
- ・ 出席率は70%以上を目標とし、実際は79%の出席率になっている。
- ・ この補習授業により授業以外の勉強時間も64%増え、効果ある。
- ・ 応募は、原則保護者の希望制であるが、経済的に苦しく保護者が希望すれば入会させている。子どもは、定員(定員15名)の倍ぐらいの応募があるが担任の先生が選ぶ場合もある。
- ・ 予算は、貧困対策の一環としての大阪市の貧困対策予算を区が申請し、認められて活用している。24区中、いくつかの区が活用している。
- ・ 大阪市の区は、区長の公募制なども採用し、東京都特別区のように、区の独自事業が認められている。
- ・ 5校で1000万円、1校200万円の事業予算。
- ・ 先生3人と管理者1名4名が担当している。



- ・ 教える内容は教科書に準拠しているが、低い学力の子どもを対象としており、勉強レベルは少し優しい。
- ・ 4月5月で募集、6月から始まり32回分の補習授業を行っている。  
(トライより)
- ・ トライは豊明の三崎小学校でもやっている。
- ・ 当初は子ども10人に1人の講師であったが、落ち着きがないため講師1人に対し子ども5人へと増やした。
- ・ 3・4年生の国語と算数だけにしているのは、基礎学力の基礎の年代であるため。
- ・ トライはこの事業で利益を上げようとはしてない。
- ・ 補習授業を希望する講師は多く、講師の募集に際しては特に問題はない。社会人の講師が多い。

④ 視察を終えて

- ・ 豊明市においても学力の2極化は深化していると推測、更に、貧困と学力低下、学力低下といじめ・不登校が関係していることから、基礎学力の分岐点である小学校3～4年の補習授業事業の必要性を強く感じた。
- ・ 《教育のトヨアケ》を売り出せば、30～40歳代の人口増に寄与するものと確信します。

●視 察 先 大阪府和泉市

① 日 時 令和元年10月9日(水) 10時00分～11時00分

② 視察テーマ 「和泉市観光振興戦略プラン」について

③ 視察内容

- ・ 和泉市は大阪府の西南部に位置し、弥生時代の集落遺跡などがあり古くから地域の中心的役割を担ってきた。
- ・ 和泉市は、92年の市中央部にトリヴェール和泉の開発後人口は0.6%増加した。街の住み心地ランキング関西版では「和泉中央駅」が第10位と高い。
- ・ しかし、近年における和泉市の人口は概ね横ばいで推移しており、今後、本格的な少子高齢化・人口減少社会が到来することなどを踏まえ、和泉市への「来訪促進」を加速させることにより、「ビジネス促進」や「定住促進」をつなげるツールとして「和泉市観光振興戦略プラン」を策定した。
- ・ 特に20歳代から30歳台世帯の人口増を目指し、和泉市を知ってもらう、和泉市に来てもらう、和泉市に住んでもらう、観光促進から定住促進へとつなげることを基本戦略としている。
- ・ 観光振興戦略プランの特徴としては、3年後に観光客を150万人にする数値目標を定めて計画的に施策を進めている。エリアごとに施策を展開している。

④ 視察を終えて

- ・ 和泉市は、知名度のある堺市とだんじりで有名な岸和田市に挟まれ、特記事項が顕著な市ではないが、都会と田舎を持ち合わせており、又、大阪都

心部の難波・天王寺へのアクセスは非常によく、今後の事業、施策の展開により発展の伸びしろは十分あると思った。

- ・ しかし、3年前からスタートした「観光振興」による人口増加の効果を質問したが、その回答は無く、観光振興が人口増加に結びついているのか疑問であった。人口増加のターゲットを20歳代・30歳代とするなら、子ども子育て、教育事業に独自性を発揮するのが本来ではないかと思う。
- ・ 和泉市は観光協会を閉鎖したとのことであるが、和泉市営の観光サテライト店が和泉府中駅前設置され、市の観光、市特産物の販売と住民票などの発行業務を5名前後の職員で運営されていたが、視察の間、来店客は無く、費用対効果に問題ありと感じた。
- ・ 豊明市の売りにできる観光は桶狭間古戦場跡しかなく、しかも駐車場の確保が難しい立地でもあり観光振興事業の拡大は難しいと判断します。人口増加は、子ども子育て・教育と宅地供給と地域交通網の整備が主な柱と考えます。

以上

令和元年度 建設文教委員会 行政視察報告書

10月8日 大阪市福島区  
「区主催 家庭教師トライによる補習学習会」について

10月9日 大阪府和泉市  
「和泉市観光振興戦略プラン」について

近藤郁子

令和元年 10 月 8 日

- 大阪市福島区「福島区主催 家庭教師トライによる補習学習会」について  
区内鷺洲小学校 3・4 年生対象に開講

- ・ 校内で各学年週一回一時間
- ・ 算数・国語の二教科
- ・ 教材費、授業料は無料

- 基礎学力をつけるために必要な時期を小学生 3・4 年生と見定め解らないままに進級しないようにすることを目的とした。

- 教員の多忙化もあり、民間のノウハウを活用  
家庭教師トライに委託

- 視察を終えて

豊明市でも土曜塾を開催し、同様の目的で行っている。

その事業を民間委託すること、校内で行うこと等で異なっている点を注目したい。

校内で行うことで、考えられる問題点は学校での指導方法と民間業者の指導方法が異なることを考えるが、校長先生をはじめ教員の理解が得られたことが開催を可能にしたと思われる。

子どもの学力低下の原因を究明し、その時期を逃さないことは重要と考え、今後のこのような授業のあり方を見ていきたい。

そもそも落ちこぼれの無い授業を行うことが困難な原因を探ることが必要で、その原因が家庭環境にあるのか、その子どもの個性からくるものなのか、ひとりひとりに向き合う時間が教員に必要であると考えます。

令和元年 10 月 9 日

■ 大阪府和泉市「和泉市観光振興戦略プラン」について

大阪府和泉市は、大阪市に続く、堺市と岸和田市の間位置している。

大阪都心部の観光状況は、2015年から急増しているが、ユニバーサルスタジオや道頓堀等の存在効果であり、和泉市の状況は大阪府の観光客急増の恩恵を受けていないため、平成28年和泉市観光振興戦略プランを策定した。

■ 和泉市の強みの確認→観光資源の有効活用し、付近を通過する人を巻き込むために

①周遊マップの作成

②シェアサイクル、観光施設周遊バス等交通機関の確保

③パブリックアート作成など多くの人に市内観光に興味を持ってもらう

④観光ウェブサイトの構築他イベントの開催

■ 今後の事業予定

今後、国内で開催されるオリンピックや万博等で日本を訪れる外国人観光客を取り込むために、今年度中にさらに、和泉市観光アクションプランを策定中

→そのために 「観光振興施策を支える担い手の育成」

①観光ボランティア等の人材育成

②旅行会社等への事業委託：いずみの国観光おもてなし処→近畿日本ツーリスト  
観光協会廃止→プロポーザルで業務委託

※ 行政職員では難しい、柔軟性のある専門的ノウハウを生かし、おもてなし処の運営(市内2ヶ所)他ツアー等も開催等

■ 視察を終えて

豊明市は名古屋市近郊であること等環境は似ていて、観光資源についても和泉市同様活かしきれていない。今回の視察で民間のノウハウを活かしたことは参考になった。もし、豊明市でも民間委託するならば行政だけでなく、市民に「観光豊明市」に理解を求め、市と市民が一丸となることが必要。

※ 市民が「観光豊明市」であることで、何の効果を得ることができるか。

豊明市に多くの来訪者があることにより、財政がどう潤うのか等プラスになることを明らかにして協力を求めているがなくてはならない。観光協会のあり方の再考も必要。